

4 主要農作物病害虫の発生状況と原因解析（平成25年速報）

1) 普通作物

(1) 水稲

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
苗立枯病	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：やや他	全般に発生は少なかったが、一部でトリコデルマ属菌による苗立枯病がみられた。	4月の天候不順により、育苗施設の温度管理や水管理が適切にできなかったところがあった。
葉いもち	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：多	梅雨明け前からの高温により、多くの地域で少発生にとどまっていたが、冷水利用や初期防除を行わなかったほ場等の一部で、発生が見られた。	ここ数年葉いもちの発生が少なかったため、菌密度が低いと考えられる。また梅雨明け前からの高温により、発生が抑制された。
穂いもち	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：多	県内全域で発生がみられた。発生ほ場率は平年並だったが、発生徳率は少なかった。	葉いもちの発生が少なかったが、7月下旬に曇雨天が続いて、発生に好適な条件となった。
紋枯病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	7月の発生はやや少なかったが、8月以降発生が広く見られるようになった。一部で高い程度のほ場もみられたが、全体としてはやや少ない状況だった。	7月中旬の高温と多雨により発生に好適な条件だった。稲の生育が過繁茂だったため、発生が助長されたほ場もみられた。
ばか苗病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：やや多	定期調査での発生は少なかったが、一部に発生程度の高い施設が見られた。	概ね適切な種子消毒や育苗管理が行われたが、4月の天候不順で一部管理が不十分だった。
稲こうじ病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：多	平年並の発生だったが、地域によって発生に偏りがみられた。	穂ばらみ期から出穂期の7月下旬が曇雨天で経過したため、発生に好適な条件だった。
縞葉枯病	平年：－ 前年：－	平年：多 前年：多	県全域で発生が増加した。県南部では発生程度の高いほ場が見られ、減収したほ場もあった。これまで少発生だった県中北部でも発生が目立つほ場が増加した。	ヒメトビウンカ第一世代幼虫の保毒虫率が高かった。8月上旬本田でのヒメトビウンカの発生量も非常に多かった。
黄萎病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－		
ヒメトビウンカ	平年：早 前年：やや遅	平年：多 前年：多	本田の飛び込み時期は早い傾向。5月から9月までの予察灯調査期間中の総誘殺数は少ない。8月上旬の本田におけるすくい取り調査では、発生程度は多。	麦での生息密度が高かった。7～8月の気温が高く推移したため、増殖には好適な条件であった。
ツマグロヨコバイ	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	5月から9月までの予察灯調査期間中の総誘殺数は少ない。8月上旬の本田におけるすくい取り調査では、発生量は平年並。	7～8月の気温が高く推移したため、発生には好適な条件であった。
セジロウンカ	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	5月から9月までの予察灯調査期間中の総誘殺数は少ない。8月上旬の本田におけるすくい取り調査の発生量は平年並。	本県への飛来は少なかった。
トビイロウンカ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	予察灯における誘殺数は少ない。	本県への飛来は少なかった。
ニカメイガ	平年：やや早 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	フェロモントラップによる越冬世代成虫の発生量はやや少ない。7月中旬の心枯茎の発生株率はやや少なく、8月下旬から9月上旬の白穂の発病徳率は県中を中心にやや多い。	越冬幼虫の発生程度はやや少なかったが、7～8月の気温が高く推移したため、発生には好適な条件であった。
コブノメイガ	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：やや少	予察灯における誘殺数はやや少ない。	本県への飛来は少なかった。
イネミズゾウムシ	平年：並 前年：並	平年：平年並 前年：やや少	5月から9月までの予察灯調査期間中の総誘殺数はやや少ない。	越冬世代成虫の越冬密度が低かったため、発生量はやや少なかった。
イネツトムシ（イチモンジセセリ）	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：やや少	7月上旬の発生程度は平年並、7月下旬、8月上旬は少なかった。	適切な箱施用剤の使用により発生が抑制された。
イナゴ類	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	8月上旬の本田におけるすくい取り調査では、発生程度は平年並であった。	
斑点米カメムシ類（ホソハリカメムシ、クモハリカメムシ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ）	平年：やや早 前年：やや遅	平年：平年並 前年：やや少	7月中旬のイネ科牧草地での発生量は多。クモハリカメムシは平年並、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメは多、ホソハリカメムシはやや少ない。8月上旬の本田におけるすくい取り調査での発生量は平年並。	6月中下旬の気温が高く、カスミカメムシ類の増殖に好適であった。7～8月の気温は高く推移したため、その後の発生には好適な条件であった。

(2) 麦

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
うどんこ病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：多	県中南部の小麦ほ場の一部で軽微な発生が見られた。	登熟期間の5月中下旬が高温・少雨だったため、発生は多くなかった。
赤かび病	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：少	5月中旬まで発生は少なかった。5月下旬の調査でも小麦で軽微な発生が見られる程度だった。	登熟期間の5月中下旬が高温・少雨だったため、発生に不適だった。
大麦縞萎縮病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：やや多	3月に六条大麦の一部で発生が見られたが、全般に少ない発生だった。	二条大麦はⅢ型抵抗性品種に切り替わった。
小麦縞萎縮病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：少ない	4月中旬調査で、り病性品種の作付けが多い地域で発生が見られた。	これまで発生が多かった地域で抵抗性品種や大麦への作付転換が進んだ。
大麦斑葉病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	少ない発生であった。	健全な種子が供給された。

(3) 大豆

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
紫斑病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－		
べと病	平年：－ 前年：－	平年：やや多 前年：多	8月中旬は多く、9月上旬はやや多くなった。	べと病に弱い品種が作付けされた地域で発生が見られた。
コガネムシ類	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：並	県北の予察灯では7月を中心としてオオクロコガネ誘殺数が一時的に多くなった。	堆肥を利用する飼料作物が多い地域では、成虫が大豆に飛び込む機会が多い。
アブラムシ類	平年：－ 前年：－	平年：やや多 前年：やや少	8月中旬は平年並、9月上旬はやや多かった。	7～8月の気温が高く推移したため、発生には好適な条件であった。
ダイズサヤタマバエ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－		
シロイチモジ マダラメイガ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－		
マメシクイガ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－		
吸実性カメムシ類	平年：やや早 前年：やや早	平年：多 前年：多	フェロモントラップによるホソヘリカメムシの誘殺はやや早い傾向。 ほ場での吸実性カメムシ類の発生程度は8月中旬、9月上旬とも平年並。	ほ場では主にホソヘリカメムシ、アオクサカメムシ、イチモンジカメムシ、ブチゲカメムシ、クサギカメムシが観察された。
ハスモンヨトウ	平年：並 前年：やや遅	平年：多 前年：並	フェロモントラップによる成虫誘殺はやや多い傾向。 大豆における幼虫の発生ほ場率は8月中旬は高く、9月上旬は平年並。幼虫頭数は9月上旬は若齢～中齢を中心に多く、発生程度は並。	8～9月の気温が高く推移したため、発生には好適な条件であったが、9月上旬に降水量が多く、発生がやや抑制された。
フタスジヒメハムシ	平年：やや早 前年：やや早	平年：並 前年：並	発生程度は、8月中旬は多、9月上旬は平年並であった。	8～9月の気温が高く推移したため、発生には好適な条件であったが、9月上旬に降水量が多く、発生がやや抑制された。

2) 野菜

(1) いちご(親株・育苗床：平成25年6～9月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
炭疽病	平年：並 前年：やや遅	平年：やや少 前年：やや少	親株での発生は少なかったが、育苗期後半になって一部のほ場で増加した。中でも夜冷処理施設での発生が目立った。	潜在感染苗の持ち込みによって施設内で広がった。8月の気温が平年に比べて高温であったため発生が助長された。
萎黄病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：並	7月に一部のほ場で発生が見られたが、9月になると散見されるほ場が増え、やや多い発生となった。	前作の本ほ場で発生が見られた生産者において、発生が見られたことから、汚染土壌の混入によると考えられた。
灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	定植が早かったほ場(親株)でのみ発生が見られた。	適切な防除により発生が抑えられた。
うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	全般に平年並の発生であったが、9月に多発生のほ場が見られた。	遮光したほ場での発生が目立った。
アブラムシ類	平年：並	平年：並	親株、育苗期間を通して平年並の発生であった。	
ハダニ類	平年：並	平年：並	親株、育苗期間を通して平年並の発生であった。	
コナジラミ類	平年：並	平年：やや少	親株、育苗期間を通してやや少～平年並みの発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(2) トマト (夏秋:平成25年6~9月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
疫病	平年:並 前年:並	平年:少 前年:並	全般に少ない発生であった。	5~8月の気温が平年に比べて高温で経過したため発生が抑制された。
灰色かび病	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:並	6月から発生が見られ、7月下旬~8月上旬の集中的な降雨により、一部のほ場で発生が急増したが、全般にはやや少ない発生であった。	5~8月の降水量は並~少で経過したため、発生が抑制された。
葉かび病	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:少	発生は一部のほ場に限られたが、抵抗性品種での発生が見られた。発生ほ場では7月下旬~8月上旬の集中的な降雨により発生が急増したが、全般にはやや少ない発生であった。	抵抗性品種が中心に作付けされているが、一部抵抗性品種で発生が見られ、新しいレースの発生が疑われた。
モザイク病	平年:並 前年:並	平年:少 前年:並	全般に少ない発生であった。一部のほ場でキュウリモザイクウイルス(CMV)による糸葉症状や果実の着色不良が散見された。	5月から継続してアブラムシ類(媒介虫)の発生が多かったため、発生しやすい条件となった。
黄化葉巻病	平年:並 前年:並	平年:少 前年:並	全般に少ない発生であった。	育苗期からコナジラミ類の適切な防除が行われた。
アブラムシ類	平年:並	平年:並	発生は少~平年並みで推移した。	
コナジラミ類	平年:並	平年:並	全般に平年並みの発生であった。	
ハモグリバエ	平年:並	平年:やや少	発生は少~並で推移した。	

(3) なす (夏秋:平成25年6~9月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
うどんこ病	平年:並 前年:やや早	平年:やや多 前年:並	6月はやや少ない発生であったが、7月以降やや多い発生となった。	6、7月の集中的な降雨や日照不足により発生が助長された。
灰色かび病	平年:並 前年:並	平年:少 前年:並	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
半身萎凋病	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや少	6月から発生が見られ、全般に平年並の発生であった。	水田との輪作、抵抗性・耐病性台木が普及しているため発生は少なくなっているが、過去に発生したほ場での発生が目立った。
青枯病	平年:並 前年:並	平年:少 前年:少	全般的に少ない発生であった。	水田との輪作、抵抗性・耐病性台木が普及しているため発生は少なくなっている。
ハダニ類	平年:並	平年:やや多	6月には多かったが、その後平年並みで推移した。	高温によって発生が助長されたと考えられた。薬剤感受性の低下も多発の一因と考えられた。
アブラムシ類	平年:並	平年:やや多	6月から8月にかけてやや多~多く推移した。	高温によって発生が助長されたと考えられた。薬剤感受性の低下も多発の一因と考えられた。
アザミウマ類	平年:並	平年:やや多	6月から8月にかけて平年並み~やや多く推移した。	高温によって発生が助長されたと考えられた。薬剤感受性の低下も多発の一因と考えられた。

(4) きゅうり (夏秋:平成25年6~9月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
灰色かび病	平年:並	平年:少	全般的に少ない発生であった。	5~8月の降水量は並~少で経過したため、発生が抑制された。
べと病	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや多	定植が早いほ場で発生が目立った。	
うどんこ病	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや少	生育初期から発生が見られ7月までは平年並、8月以降は全般にやや少ない発生であった。	7月までは生育に適した気温で経過したが、8月以降は高温により発生が抑制された。
褐斑病	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:並	8月までは発生は少なく、9月になってからやや少ない発生となった。	5~8月の降水量は並~少、日照時間は並~多で経過したため、発生が抑制された。
疫病	平年:並 前年:並	平年:少 前年:並	全般的に少ない発生であった。	5~8月の気温が平年に比べて高温で経過したため発生が抑制された。
ハモグリバエ類	平年:並	平年:やや少	発生は少~平年並みで推移した。	
アザミウマ類	平年:並	やや多	4、5月は多く、6月はやや多く、7月には平年並みの発生であった。	夏季の気温が高く降水量も少なく、発生に好適な条件であった。薬剤感受性の低下も多発の一因と考えられた。
アブラムシ類	平年:並	平年:少	全般的に少ない発生であった。	

(5) ねぎ

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
さび病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：多	8月までは平年並の発生であったが、9月に入ると少ない発生となった。	8月の高温、少雨であったため発生が抑えられた。
べと病	平年：やや早 前年：早い	平年：やや多 前年：多	7月はやや多い発生であったが、8月以降は少ない発生となった。	6、7月の集中的な降雨や日照不足により発生が助長された。
黒斑病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや少	全般に平年並の発生であった。	
萎縮病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	
アブラムシ類	平年：並	平年：少	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年並	平年：並	全般に平年並みの発生であった。	生育期には寄生が多いものの、収穫前の適切な防除により被害は抑えられた。
ハモグリバエ類	平年並	平年：並	7月は多かったが、8月以降は減少した。	適切な防除により発生が抑えられた。
ネギコガ	平年並	平年：やや多	7月は多く、8月はやや多かった	ネギコガを対象とした防除が少なかったことが原因と考えられる。

(6) たまねぎ

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
さび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
べと病	平年：やや遅 前年：並	平年：多 前年：やや多	3月までは少ない発生であったが、4月以降発生が急増し、多い発生となった。	4月下旬～5月上旬の低温、4月の多雨により発生が助長された。
灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
黒斑病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アブラムシ類	平年：並	平年：やや少	4月にはやや多かったが、5月には少発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年：並	平年：並	4月にはやや多く、5月には多く発生した。	薬剤感受性の低下および商品部位への加害が無い十分な防除が行われていないことが原因と考えられる。

(7) 野菜共通 (さといも、だいこん)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
ハスモンヨトウ	平年：並	平年：やや多	フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の誘殺数は、やや多く推移した。	
オオタバコガ	平年：やや早	平年：多	フェロモントラップの誘殺開始は平年より早く、発生量も多かった。	

3) 果樹

(1) なし

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
黒斑病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	県内の主力品種は、耐病性のある幸水、豊水が作付けされている。
黒星病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	発生量は、5月はやや少なく、6月にやや多くなったものの、7、8月は平年並となった。	開花後（5月上旬）の降水量が少なく、日照時間も多かったため、発生に不適な条件となった。6月中旬頃の多雨により、一時的に発生が増加した。その後の降水は局所的で強く、日照時間も平年並で、発生は増加しなかった。
赤星病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	5月の発生は少なかったが、6月～8月の発生は平年並～やや多く推移した。	4月の降水量は多く、発生に好適な条件であったが、産地のビャクシン類が少なく、飛散胞子量が少なかった。
アブラムシ類	平年：並	平年：並	発生はやや少～並で推移したが、8月にはやや多くなった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハダニ類	平年：並	平年：やや少 前年：やや他	少～平年並みの発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハマキムシ類 幼虫	平年：並	平年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(2) ぶどう

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
晚腐病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
べと病	平年：やや遅い 前年：遅い	平年：やや少 前年：少	5～7月は少ない発生であったが、8月に平年並の発生となった。	5～6月の気温は平年に比べ高く、降水量は少ない～平年並で発生が抑制された。
黒とう病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：少	7月以降、一部の品種で発生が見られた。	5月の降水量は平年に比べ少なく、発生が抑制された。
チャノココク モンハマキ	平年：並	平年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年：並	平年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(3) りんご

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
斑点落葉病	平年：やや遅い 前年：やや遅い	平年：少 前年：少	9月に一部のほ場で散見程度の発生が見られたが、全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
赤星病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	8月に平年並の発生となったが、全般的に少ない発生であった。	産地のビャクシン類が少なく、飛散胞子量が少なかった。
褐斑病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや少	全般的に少ない発生であった。	5～6月の気温が高く、降水量は少ない～平年並で、発生に不適な条件となり、発生が抑えられた。
輪紋病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	
ハダニ類	平年：並	平年：並	全般的に平年並の発生であり、8月から9月にかけて一部のほ場でやや多く発生した。	適切な防除により発生が抑えられた。
アブラムシ類	平年：並	平年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハマキムシ類 幼虫	平年：並	平年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(4) 果樹共通

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
カメムシ類	平年：並	平年：少	フェロモントラップによる誘殺数は、少なく推移した。	
ナシヒメシンクイ	平年：並	平年：並	フェロモントラップへの誘殺数は平年並みで推移した。	
モモシンクイガ	平年：並	平年：並	全般に平年並みの発生であった。	
リンゴココクモンハマキ	平年：並	平年：並	全般に平年並みの発生であった。	

4) 花き

(1) きく

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
白さび病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	4月に一部のほ場で発生が見られたが、全般的に少ない発生であった。	4月は降水がかなり多くなり、発生に好適な条件であったが、5月以降、気温が高く推移したため、発生が抑えられた。
アブラムシ類	平年：並	平年：並	発生は少～やや多く推移した。	一部で防除が遅れ、発生の多いほ場も見られた。
アザミウマ類	平年：並	平年：やや多	4、5月は平年並みであったが、その後は多く推移した。	昨年から引き続き多い発生が続いている。夏期の高温により発生が増加したと考えられる。また、薬剤抵抗性の発達により難防除となっている。
ハダニ類	平年：並	平年：やや多	並～やや多く推移したが、5月には発生が多かった。昨年から引き続き発生が多い。	発生量はステージに依存しており、県全体としての傾向は見出しにくい。薬剤抵抗性の発達により難防除となっている。
ハスモンヨトウ	平年：並	平年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。